

色麻町教育研究会 学校支援ボランティア研修会

概要

色麻町では、平成20年度より国の委託事業である「学校支援地域本部事業」をスタートさせました。すでに、平成18年度に学校支援ボランティア制度を立ち上げ、地域住民による学校の教育活動の支援に取り組んできています。県内でも協働教育の先進的な取組をしている町です。

この度、町内の幼小中学校の教職員で組織する色麻町教育研究会(会長 氏家哲男色麻小学校長)では、学校支援ボランティア研修会をとおして学校支援地域本部事業についての理解を深めました。

学校支援ボランティアの先進地である千葉県木更津市の事例についての講演を聴いたり、グループで学校支援ボランティアを受け入れるにあたっての課題を話し合ったりすることで、協働教育の具体的な取組について研修しました。

- 1 主催 色麻町教育委員会・色麻町教育研究会 色麻町協働のまちづくり実行委員会
色麻町学校支援地域本部
- 2 日時 平成20年8月7日(木) 13:30~16:00
- 3 場所 色麻町農村環境改善センター
- 4 内容 学校支援地域本部事業について
~木更津市の実践をとおして~

《次第》

- 1 開会のあいさつ 色麻町教育委員会 教育長 菅原 力
- 2 講師紹介 色麻町教育研究会 事務局 鹿野又 まき子
- 3 講話 「木更津市の学校支援ボランティア活動推進事業」
講師 木更津市教育委員会学校教育課
主幹(指導担当総括) 廣部 昌弘
- 4 ワークショップ 「学校支援ボランティアを受け入れるにあたっての課題と解決方法」
コーディネーター 日本ボランティア学習協会常任理事
桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員講師
木村 清一
- (1) KJ法
・「学校として、学校支援ボランティアを受け入れるにあたっての課題」についてグループでの話し合い
- (2) 発表会
・グループごとの発表
- 5 情報交換
- 6 閉会のあいさつ 色麻町教育研究会 会長 氏家 哲男

《研修の様子》



色麻町では、学校支援ボランティア制度を立ち上げるにあたり、先進地である木更津市を訪問したそうです。



「学校支援ボランティアが学校に入ることで、子どもたちの規範意識が高まった。」という話がすごく印象的でした。



木村先生のワークショップでは、8つのグループに分かれて提示された課題について話し合いました。様々な観点から意見が出ました。



それぞれのグループで出された意見は紙にメモし、内容ごとに分けました。全員が意見を述べました。



日頃思っていることを出し合うことで、様々な課題が明らかになってきました。また、他校の教員との情報交換もできました。



「学校支援ボランティア」として登録している町民の方も参加しました。ボランティア側からみた課題についても話し合いました。



出された課題は紙にメモ書きし、同じ観点だと思われるものをひとまとめにして、タイトルをつけました。



課題メモを分類することで、参加者にとって課題意識が鮮明なものとなりました。課題解決に向けたヒントもありました。



グループごとにまとめた課題について発表しました。「コミュニケーションに関すること」は各グループから出されました。



今後の効果的な事業運営に向けて、出された課題の解決が課題になりそうです。

研修会に参加して

まず、研修会のテーマに、「学校支援ボランティア」を掲げ「学校支援地域本部事業」について教職員が積極的に研修に励む姿勢に感心しました。行政職員も意欲的に研修の開催に関わり、「学習ボランティア」に登録している町民も参加するなど「子どもたちをよくしよう」「町をよくしよう」という意欲が伺えた研修会でした。

時間の関係で出された課題を解決する方策について議論できなかったのが残念でしたが、参加者にとっておそらく「ここをこうすれば？」といったようなヒントをつかむことができたのではないかと思います。今後の色麻町の協働教育推進を大いに期待したいと思います。
(生涯学習課協働教育班員)